

また葛城の小道を歩こう

森井章太郎

奈良県・四四・会社員

変わりはないですか。

東京もすっかり冬の景色になりました。そちらはもっと冷え込んでいるのでしょうかね。

単身赴任でこちらに来てから早一年が過ぎました。言いつけ通り食事もしっかりと食べています、掃除も洗濯もなかなかこまめにやっています。一人暮らしになってからすべてが初めてのことはかりでした。初めてロールキャベツを作りました。初めてトイレットペーパーを抱えて帰りました。そして、初めて君の写真を机に飾りました。こうして手紙を書くのも、結婚以来初めてのことですね。

君と離れて暮らすことで、最近君のことをよく考えたりします。君は幸

せだったのかと。毎朝誰よりも早く起き、お弁当と朝食を作り、掃除をし洗濯をし買い物に行き、みんなの夕飯を考え、そうして一日、そして一年が過ぎてゆく。いつも遅いばかりの帰宅を、灯りを燈し眠らずに迎えてくれた君の姿を思い出し、君の幸せについて考えたりします。

二度目に君がこの部屋を訪ねて来てくれて、また戻る日に、初めて君の手を握り駅までの道を歩きました。君は随分驚いた様子だったけど、ホームで君を見送る時、走り出した列車の窓越しに君は笑顔でずっと手を振っていました。二十年という日々の中で君がぼくへ向けた数々の気持ち、手を握って歩いた、ただそれだけの行為に、君はすべて報われたように、そうして微笑んでくれました。ぼくはそのことが堪らなくて、君の二十年を考えずにはいられなくなりました。

優秀賞

単身赴任をしてぼくは初めて君を見つめ、嫁でなく妻として君を想えるようになったのかもしれませんが。今は、早くこちらの仕事を終え、君の待

つ家に帰れる日が待ち遠しくてなりません。それまで君も身体には十分気をつけてください。ばくも言いつけ通りちゃんと食事をとって、元気で暮らします。そして、また君の手をひいて葛城の小道を二人で歩ける日を楽しみに、がんばります。

*私たちは今年結婚二十年目を迎えるごくありふれた夫婦です。たまたま私が単身赴任となり、ひとりで家を守る妻の姿を思うにつけ、当り前として見過ごしていた妻の優しさを強く感じて、この手紙を書きたいと思いました。単身赴任は妻に多くの苦勞を負わせましたが、わたしに、彼女に対する思い遣りを取り戻させる機会であったのではないかという気がしています。